

## 建物用 IT 強震計システムでみれるもの

## What is observed by the IT Strong Motion Seismometer System for Buildings.

# 鷹野 澄 [1]; 伊藤 貴盛 [2]

# Kiyoshi Takano[1]; Takamori Ito[2]

[1] 東大・地震研; [2] 応用地震計測

[1] ERI, Univ. of Tokyo; [2] OYO SI

大地震による災害を軽減する為には、小さな地震のときに私たちの住宅や会社、学校など、身近な場所の揺れを調べてその弱点を探り、効果的な耐震対策をすることが有効と思われる。IT 強震計は、このような目的で、利用者自身が設置して利用する新しいタイプの強震計として考案された。

我々は、建物用 IT 強震計システム（鷹野他 2005）として、多数の IT 強震センサー（ITK sensor）を建物内に設置し地震時の建物の揺れを観測するシステムを開発した。これを 2006 年 5 月頃から、地震研究所の 1 号館（免震造）、2 号館（鉄筋コンクリート（RC）造）、3 号館（鉄骨造）のそれぞれの建物に設置して長期間の観測を行ってきた。

本発表では、この約 1 年間の観測記録を整理して、我々の開発した建物用 IT 強震計システムによってみれるものについて論じ、建築物のヘルスマニタリングのためのツールとしての可能性を探る。特に、多数の観測データが得られている震度 1 程度の弱い地震の揺れで何がみえるかを探してみたい。